

池田文書の研究 (二十六)

11 明治二十五年二月七日

三九六 入澤達吉 池田謙齋様

日本東京駿河台 在ストラアスブルヒ

池田御叔父様

明治廿五年二月七日 (日曜日) 認

入澤達吉

寒威難去候処、益御清穆被遊御起居珍重此事ニ奉存候、次ニ私共両人も無事勤学罷在候間、乍憚御放念被成下度候、去臘十二月十七日御認芳書英貨金貳百磅為替券在中之分、去月廿九日到着正ニ落手仕難有奉拝謝候、早速返書拝呈可仕候之処、日本方米国便之来着を待居候為今日迄相遅れ申候段御海想被成下度存候、一昨日、去年十二月廿七日迄之新聞紙も参り、国会解散之次第モ相分り申候、実ニ思ひ懸けなき事トノミ存居候ヘシガ、其時の事情を悉知仕候へば是亦不得已手段ト奉存候、議會之趨勢も甚ダ面白カラズ候へ共、去迎も政府の仕打も余り感服不仕

海軍大臣の演説の如きハ随分場所柄ヲモ弁ヌ言ナリト存候

此度の拳の如きハ寧ろ却ツテ藩閥内閣の弊ヲ打破し、政治の改良ヲ企図スル近道ナラムカトモ存申候、兎ニ角再撰拳の眺

にモ民党の多数を制スルハ必定ナラムト愚考仕候、最早唯今頃は再撰拳の準備中にてあらむ欵ト後信の未着を翹望仕居候、○却説御容体の義モ頗ル御快方ニ被為入、去年に比シテハ御肥満被遊候趣何寄大慶ニ奉存、小子共ハ実ニ安心仕居候、何卒今後も飽迄充分ニ御攝養ニ御注意被遊度祈居申候、秀男君も断然中途の帰朝を見合ス事ニ決心致居ラレ当学期の如キハ学課の都合ニテ繁忙トハ云へ、小子ト同ジク毎日燭ヲ点ジテ起キ出テ月を踏ンデ帰り、頗ル勉強ニテ随分苦シキ様子ニモ御坐候、是レハ来学期及本年の冬学期之都合ヲ見計ラヒ過度ナレ共多ク講聴被致候故ニ御坐候

三月下旬限りニテ当学期ハ終り、四月下旬方夏学期相始マリ申候

当地解剖実地演習は頗ルヨロシク教師の親切ト綿密トニテ学生之幸福は不尠、小生等ハ実ニ羨敷御坐候、明年春方ニ学期程他の大学ニ転ジ、ソレよりマタ当大学ニ帰り試験相済マセ、更ニ専門の良教師ヲ撰ビ從学被致候事ニ相談致し居候間右御承知被成下度候、同君身体モ強壯ニテ御坐候、唯胸(患部ノ癥痕アル方)ハ發達ヨロシク無御坐候が少シク氣ニ懸リ申候へ共、四肢杯ハ頗ルヨク發育致居申候、去冬より小生の發意にて一周二回、夜間兩人ニテ市立の体操所ニ入門シ、体力ノ發達ヲカトメ居申候、甚タ健康ニ裨益アル事ニ相寛申候、秀男君ハ技芸巧妙、小生は最拙、為メニ全場の笑ヲ候事も數は有之、面目可笑シク御坐候、○井上勝之助氏の手許ニアリシ金円の義ニ就テハ去冬中申上候筈故、疾クニ御承知被

下候事ト奉存候、先月始巴里ハ年賀状参り候故、最早帰朝之途中ニ被居候事ト奉存候、取急ガレ候事ト相見え出立の節詳シキ報知も無之候、○扱て此度の御書面ニ接シ更ニ熟考之上小生の卑見左ニ申上候間御覽被成下度候、実ハ去年方佛語相始メ申候へ共、学課繁忙にて迎モ継続致し兼中途方相廢シ遺憾至極ニ存居候、本年二月限りにて「アルバイト」(此事ハ文末ニ記シ可申候)モ多分済候事故、其節ハ再び相始め、若シ御健康追々宜シク候は、明年三月ヨリ七月迄巴里ニ一学期丈ケ留学シ是非シャルコー・ブーシアー等の講演ヲ聴キ度ト心懸居候、然シ此度の御書面の模様ニテハ、時宜ニより候テハ本年中にテモ病院御設立相成候御計画被為存候由ニテ候故、仰ニ從ヒ巴里行ハ乍遺憾思ひ止り、本年の冬学期相済次第明春四月中ニ出立帰朝可仕候、乍去是非仏文の医書丈ケハ解読致候様ニ相成度存居申候へ共、何分内科ハ範圍広クシテ、之ニ附属致居候学課も不尠、電気学の如キ、咽頭学の如キ、小兒科の如キ、婦人科の如キ、是非一ト通ハ心得置キ度ト存居申候故、余暇無御座候事致シ方無御坐候、去年中申上候通り(此度の御状御差出相成候後、日ナラズシテ鄙書御落手被下候へシ事ト奉存候)婦人科・産科の「クリニツク」を、去冬方「フロインド」先生ニ就キ聴キ居申候へ共、婦人科の「フアル」方ハ産科ノ「フアル」多く、且ツ一周三回ノ中一回ハ内科講義ト衝突致候為メ、婦人科の方ハ欠席致候事ニテ誠ニ不本意ニ存居申候、且ツ実地演習(婦人科のトツシールクルズス)ハ当地ハ甚ダヨロシカラズ候故、是レハ本年夏休中ニ伯

林ニテ「フエリエンクルズス」を取り候積リニ御坐候、可成時間ヲ都合致シ次学期ニモ「フロインド」先生の「クリニツク」ヲ引続キ聴講仕度積りに御坐候、此他、内科ニ大關係アリ喉眼底検査ノ演習ヲ猶ホ一学期取り度存居申候へ共、時間の工合にて如何相成申候哉未定に御坐候、電気は少し聞申候、喉頭も極ク少シ宛ナレ共時々聴キ居申候、小兒科ハ未ダ一度も聴キ不申候、次学期、時間表の出候ヲ待居申候。故ニ次ハ当地ニ猶ホ止リ候事ニ相決シ申候。右の諸課ハ伯林ニテモ当地ニ異ナラズ出来申候故、四月より直チニ参り度モ御坐候へ共、肝腎の内科の為メ猶ホ一学期相止リ申候事に御坐候、若シ出来候ナラバ「フステルン」休暇中より八月末又ハ九月迄カ、リ、学期中ハ課業の傍ラニ「ナウニン」先生ニ願ヒ、一箇の「アルバイト」致度心掛居申候、是レハ「ホツペサイレル」先生の方の分相済み申候迄申シ出シ候事控居申候、扱テ「ホツペサイレル」先生の方の「アルバイト」ハ、先生近年酸素欠乏ニ伴フ新陳代謝の状態ヲ取調べ居ラレ、殊ニ乳酸ノ排出ニ就キ種々の試験ヲ致シ居ラレ申候、日本人一名(荒木ト申シ元ト別課生)生理化学専門ニナル積ニテ三年來同先生ニノミ從学シ居ルモノ、主トシテ検査ニ從事致居申候

先生年七十二近ケレトモ、勉強壯年の人ニ譲ラズ日々懇切ニ諸生ヲ教授シ且ハ実験ニ從事被致居申候

小生ハ種々ノ病的の血液中及「アゴニー」の時、排出セル尿中ニ於ケル乳酸の關係ヲ検査致居申候、右モ去年中ニテ大抵終リ、其後ハ諸臓器中の Ca^{++} 、 K^{++} ノ存在ヲ定め居申候、「ポジ

チーフ」ノ成績モ二三出申候、又夕血球中ノ乳酸（血漿中ニアルハ知レ居申候）ヲ近頃取調居申候、可成三月初迄ニハ終結仕度存居申候、何分他ニ「クリニツク」ヲ控ヘ居リテノ仕事ニ御坐候故、一日ニ数度「ラポラトリユム」ヲ離レ候為メ時間ヲ徒費スル事多ク、専門ニヤリ候へば一学期ニテ出来候事モ二学期相掛リ申候、殊ニ化学ニ関シタル仕事ハ時間ヲ要スル事多ク、一トツノ乳酸ヲ極め候ニモ一週間モ掛リ候事モ御坐候、右アルバイトノ事ハ成績ヲ世ニ公ニ致シ候迄ハ可成ハ他言致ササル義ニ御坐候故、右御含み居被下度候（総テノ「アルバイト」皆ナ。若シ人ニ先鞭ヲ著ケラレ候へバ数年心血ヲ注キタル事モ殆ンド徒勞ニ属シ申候、扱テ小生明年帰朝後之方向ニハ実ニ幾度カ相迷ひ居申シ、他人ノ事ニハ余程先見ノアル積リニテ居候モ、自分ノ事トナリ候ト一寸先キノ事モ如何シテヨキヤ相分ラズ、折ニ触レ日本ノ友人杯ニ相談致候モ、是々ノ事ハナス可ラズ、田舎ニハ行ク可ラズ、何々ヲスルハ不可ナリ杯「ねがチーフ」ノ事ハ皆ナ意見ヲ洩シ呉レ候へ共、左レバ如何スベキカト申シテ名案モ無キ事ニテ、自分ニテモ茫然致居申候、愈病院ニテモ御設立ノ御計画被為在候ナラバ乍不及吃度一臂ノ力ヲ致シ可申候、唯ノ開業ノミニテハ迎モ学問的ノ医者ヲヤリ候事六ヶ敷、一新薬ノ功驗ニテモ試ムル事難相叶候、病院ヲ控居申候へば、「クリニツク」トハ異ナリ、設令營業的ノ性質ナルニモセヨ）心懸ケ次第ニテハ随分傍ヲ研究モ出来候事故誠ニ喜バシク御坐候、然し一ヶ月ニ二百円ノ収入無之候テハ東京ニ生活致候共随分困難ナル

事ト存候、当分の内ナリトモ業務ニテ他ニ収入ノ道アリ候へハ最モ都合ニ御坐候へ共、是レハ必ズシモト申ス訳ニテ無御坐候、唯だ一定額ノ月入アリ候へバ安心ト申ス次第ニテ御坐候、茲ニ予ジメ御承知相願置度義有之候故、不憚ニ申上候、即チ人間一生ノ事ハ如何ニナリ申候哉前以テ分リ兼候事ニテ、小生モ一生涯必ズ其病院ニ従事仕候ト申候事ハ今日ヨリ誓言仕兼候、ト申シテ外ニ唯今目的ノアリ候ニテハ無御坐候、唯為後日申上置候義ニテ御坐候、ガ乍去、少クトモ秀男君成業帰朝被致候迄ハ如何ナル困難ヲ排シテモ心身ノ及ブ限リハ必ズ尽力シテ其隆盛ヲ相謀リ可申候、其後ニ至リテモ協力シテ益規模ヲ大ニシ完全ヲ図ラントハ今日ヨリモ希望仕居候事ハ御坐候、若シ秀男君外科ヲ専門ニ被修候へば誠ニ都合ヨロシク候事ト存居申候、御賢慮モ御同様ノ事ナラムト奉存候、同君ハ今日ニテハ猶ホ初学ノ事ニテ候故、格別専門ニ好悪モ無御坐候、必要ナレバ何ニテモヤルト被申候、然シ余リ狭キ学問ニテハ面白カラズトノ事ニ御坐候、駿河台ハ偶々病院ノ中心ニ相成申候故、小生等如何ニ尽力致候共、徒ニ他ノ俗人等ガ人爵又ハ長老ヲ尊崇致候為め、実力以外ノ競争ニ敗ヲ取り候哉否ヤ、勝敗ハ兵家ノ常ト申ス如ク今ヨリ預言難仕候、佐々木・櫻村氏杯モ追々病院ヲ盛大ニセラル、見込ノ由ニテ、佐々木氏方ハ書生ヲ一名当国ニ留学致シ置カレ候、其外不日帰朝致候咽喉耳科専門ニ修候者ヲ雇ハレ候由ニ風聞承及申候、櫻村氏方ハ其子息、外ニ医学士一名ヲ留学致シ置カレ、猶ホ今年一名ノ医学士ヲ当国ニ送ラレ候由ニ御坐候、

御身体御健康ニ被復候ナラバ、当初両三年の間ハ是非御尽力相願ハズテハ随分困難の事ト存申候、素人にハ医者ノ巧拙、学力等ハ相分り不申、軒ヲ並べ居候病院ノ間ニ立チテ小生一人ニテハ如何ニモ必勝ハ預期シ難キ事ナラムト存申候、肩書ノアル年長の医者ニかゝり度キハ素人の通幣ニテ御坐候故、此処御勤考被成下度候、他に好キ土地モなきモノニヤ扨ト存居申候、如何に候ヤ、斯ク申上候モ決シテ小子ニ於テ競争馳驅の勇ナキニテハ無之、唯だ必勝ヲ期スルノ点ヲ掛念致候而已ニテ御坐候、併シ既に土地ヲ御買入に相成候ナラバ異議ハ不申上候へ共、此上ハ唯だ当初少クトモ両三年間の御助力偏ニ願上候義にて御坐候、猶ホ此義ニ関シ御意見御洩シ被下度御返事至急御待居申候、愈病院御建設ト相決し申候へば、猶ホ小生方御注文（建築其他ノ事ニテ）申上度箇条モ少々御坐候間、預ジメ御設計ノ大略モ御洩シ被下度願上候、又タ小生一身の医学ニ関シ候考ハ、若シ病院ニテモ従事致候ナラ少シツ、にてモ不撓、學術の研究ヲ続ケ度、少クトモ大学の教授連ヲ相手ニシテ学問ヲ輓推スル丈ケの決心ハ何処迄モ持続致候積リニ御坐候、否ラズシテ毎日唯だ病者ヲ診シテ処方ヲ書キ居候而已ニテハ、当分ハ兎モ角モ数年の後ニハ忽チ日新學問の進歩ニ遅れ、是迄の日本の有様の如ク無端、若手に威張ラレ候様ニ相成可申候、斯クテハ一生涯の相場も十年ヲ出デサル内ニ極リテ仕舞候事ニ候故、学問ノ研究丈ケハ時勢ニ遅れザル様勤め度存居申候、運モヨケレバ何か発明ノ出来ナイ者共限ラヌ事ト存申候、右等の目的ヲ相達シ候ニハ「クリニ

ケル」ニテモ一ニ「アルバイト」ヲシテ世の中に知ラレテ居ラザレバ世間ノごまかし医者ト同等ニ見做サレ候事心苦シキ限りニテ御坐候故、時間ハ実ニ惜シク外ニ学ビ度キ事モ御坐候へ共、出来ルナラバ猶ホ「トツナウニン先生の処ニテ」アルバイト」致度ト存居申候、然シ是レハ来月未頃ニナラザレバ確定仕兼候、帰朝後モ一周二三時間位ハ時宜ニヨリ私立学校ニテモ出デ、忘レザル為メ及ビ「フラルシエン」スル為メニ内科ノ「クリニツク」位ヤリテモヨロシクトモ存居申候、扱又小生一身の従来よりの希望ハ、何カ天下に大事業ヲ成シ名ヲ揚ゲ度キトノ一事に御坐候故、医者ニナリ候モ他日若シ風雲ニ際会スルノ機アリ候へば喜ンデ飛ビ出シ度キ了見にて御坐候、比較を致候モ笑止に御坐候へ共、仏ノ「クレマンソー」、独ノウキルホウ、伊ノ「バッチルリー」（此人ハ医学上ノ「アルバイト」モ中々アリ、両三年前迄文部大臣、今ハ衆議院ノ副議長ト覚居申候）等の如クナルヲ得ハ面白カラシ杯と今ニテモ時々夢ミ居申候、然シ廿年間書生の境涯モ先ヅ明年にて一段落ヲ告グルト思候へば、疎放之念モ多少弱味ヲ感じ候様ニテ御坐候、乍去人間ハ少シハ「イデアール」ノモノガ宜シク、世ニ大業ヲ就セシ人モ多クハ「イデアール」ノ人物ニテ御坐候故、余リ「マテリアル」ニ成リ果テズニ一点希望ノ螢火ヲ心頭ニ止メ、告朔之饌年ニ迄残シ置キ度存居申候、実地の事業ニ従事スルニ随ヒ追々希望の範圍の狭バマリ候様の心地致候モ致方無御坐候、曩ニ大学ヲ卒業致候節モ亦タ此感御坐候、其折、悪詩一首ヲ賦シ懷ヲ述ベタル事アリ、

今日モ亦其心地致シ居候俟左ニ汚瀾覽申候、年少豪縦気絶倫、誓期大業濟斯民、豈凶心事易蹉跌、遂作尋常一様人、乍去、向來如何ニ実地の医業ニ従事シ其職ニ勉強致候へばトテ平ノお医者様ニ成リ果テ槽櫃の間ニ老死候テハ速モ死ニ切レ申サズ、実業ヲ勉強シ傍ラモ勤メテ毎日二三時間の読書又タハ実験丈ケハ継続仕度心得に御坐候、左レバ十年位の後ニハ何カ出来ル事モアランカト存居申候、小子性、他ニ嗜好少ク、遊戯ハ好不申、此頃体操ニ参リ候モ、余程健康の事ヲ顧ミ自分ヲ「ツウインゲン」致シテ参リ候位ニテ御坐候、未ダ玉突の棒ヲ手ニセシ事モ無之、骨牌ヲ弄セシ事モ無之、「ピール」モ飲ミ不申、好ンデ新聞ヲ読ミ雑談致ス位ガ嗜好ノ最上ニテ御坐候故、後來モ一日二時間宛位ノ勉強ノ余暇ハ必ず是レアル事ナラムト存居申候、是レサヘ持統相叶候ナラバ其他の時間ハ挙げテ病院事業ニ缺掌致シ、心身ヲ害セザル限リハ飽迄尽力可仕候、四五日來愈明春、帰朝の事ニ決心仕候へシニ、何ダカ今度ハ早く帰リテ実業ニ従事シテ見度相成申候、当地日本人ハ四人丈ケ、随分退屈ニテ御坐候、日曜日ハ終日家ニ居候外致方無御座候、他ノ大ナル都府ト違ヒ、行キテ見候処モ無之、休日冬籠は頗ル閉口仕候、此地ハ物価貴ク（軍隊増加シテ物価愈貴ク）且ツ從來ノ日本人ガ一定ノ格式ヲ作り候様の工合モ有之、伯林方ハ生活ニ多額ノ金ヲ要シ申候ハ實際ニテ御坐候、伯林ナレバ邦人ノ種類沢山御坐候故、如何ナル方法ニテモ生活相叶申候へ共、小キ処ニテハ日本人ハ日本人ノ様ニ同ジニ致シ居ラザル可ラザル事にて御坐候、夏休杯

ニハ実ニ退屈無体至極（外ニ嗜好ノアル人ハ格別）為メ二年思モチト多ク旅行ヲ致シ過ギ候段、不悪御海惣被下度候、今年ハ九月伯林ニ転学致シ候外（其節殊ニ寄り少シの廻り道ハ致候哉モ難計）旅行ハ不仕、明春帰朝前ニ倫敦・巴里及維也納ヲ見物仕度、是丈ケハ御許容被下度願上候、○竹山^{（下）}七郎病氣ニテ父同道出京之旨先日申参リ承知仕候、跨閑節炎之趣に候へば治療行届き候後も跛行ハ不免事ト奉存候、御かず様其後如何ニ被為存候哉、よろしく御伝声奉願上候、昨年ニ比シ候へば今年ハ当地寒氣甚だ弱ク誠ニ凌易喜居申候、先月中日本方友人近藤生ナルモノ当地ニ來ル通信アリ待居申候、日本方の留学生も追々数を減シ申候、可賀事にて御坐候、地震之写真知人方沢山送り呉レ、慘状実ニ驚人申候、○秀男君えの日々新聞ハ両三年来毎度不足税ヲ払へ居ラレ候由ニテ、既ニ数回申上候トノ事、小生方モ二度申上候筈、秀君方弘君^{（下）}えモ申送ラレ候筈、総計ニテハ随分多額ノ金ニ相成リ、一昨日モ現ニ二マルク四十ペンニヒ払申候、恰モ無税ニテ御送り相成リ御貼用ノ印紙ハ無益ニテ、其上ニ倍ノ税金相払候都合ニ御坐候間、後來必ず嚴重御申附被下度候、私宅ニテハ海外行ノ印刷物目方の事承知致居候筈ニテ御坐候間、御序ニヨリ御間合被遊度候、乍末筆皆々様えよろしく御伝声被下度奉申上候、先ハ是レにて今便ハ閣筆仕候、草々不宣、○御返事相待居申候故御序ニ御執筆奉願上候也

Z.B.110 毎度申上候通り御封筒ノ上ニハ「経米圍」ト日本字ニテ必ず御記入入被下度候、左レバ二週間早く着仕候

○別紙急ギ不申候が御序ニ宅え御届け被下度願上候也、
以上 (田中)

- (一) 海軍大臣……樺山資紀 (明治二十四年五月〜二十五年七月)
- (二) フアル……Fall. 症例。
- (三) トツシールクルズス……Tuescher kursus.
- (四) フェリエンクルズス……Ferien kursus. 休暇中の講習会。
- (五) ヲステルン……Ostern. 復活祭。
- (六) アゴニー……Agonie. 死苦。
- (七) PO_4KH_2 …… KH_2PO_4 . リン酸二水素カリウム。
- (八) 佐々木・櫻村氏……佐々木東洋と櫻村清徳。
- (九) フラルシエン……forschen. 研究する。
- (十) 告朔之餼年……形式だけでも残っていると根本精神を忘れないよすがになるの意。
- (十一) ツウインゲン……Zwillingen. 強制する。
- (十二) 竹山七郎……竹山本家の息子で謙齋五男の友五郎の同級生
- (十三) 御かず様……謙齋妹石田かず
- (十四) 弘……吉田弘 (謙齋の姉・行田八重子の息子)
- (十五) N.B.:……ラテン語 (nota bene) 注意せよの意。

12 明治 (二十七〜二十八年) 八月十日

三八六 入沢達吉 池田謙齋

前文御高免被下度候、陳は其後は引続き御快方に被為赴候事ト奉遥察候、当地駿河台御留守宅始鎌倉にても、皆様御変リ不被為在候間、御安心被下度候、小生もチラホラ病人も参り旁た随分用事も沢山有之、退屈仕候呈にも無御座候間、是亦 候節のハ発見実ニ容易にて、最初に予想セシ如クニ着々ト好成绩で候由に御座候、運のよき事ト奉存候、先は一筆右申上度、折角御養生専一奉祈上候、万端讓後便 草々
八月十日夜 東京 入沢達吉

(二) イカホ

池田御叔父様

昨日新潟竹山方来状、多忙にて御無沙汰仕居候が、宜シク申上呉候様申出居候也 (斎藤)

(一) 鎌倉……鎌倉由比が浜に謙齋別荘あり。

(二) イカホ……謙齋、明治二十二年皇室保養地として伊香保の地を充てる事を建言する。後議決され、民有地買収。

○達吉、明治二十七年帰朝し、同二十八年医科大学助教授とな

るまでの間の書簡と思われる。

13 明治(三十二)三十三)年六月十三日

一二四二 入沢達吉 池田謙斎

拜啓、追々暑氣相加候処、愈御安泰被為入奉賀候、陳は今日官報にて拜見仕候ニ、充四郎君幼年学校入学試験及第相成候段、大慶ニ奉存候、又秀男君ハ既ニ御帰朝相成居候哉如何ニ御坐候、此間方参堂可仕奉存候俟、多用ニ取紛れ延引仕居候、先は右御悦旁御伺迄如此、草々頓首

六月十三日

入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

(二) 充四郎……謙斎四男

○充四郎・明治三十一年三月小学校卒業、秀男・明治三十二年十一月帰国届提出、という事からこの書簡は明治三十二年〜三十三年のものとした。

14 明治(三十四年)五月十六日

四〇二 入沢達吉 池田謙斎

拜啓、陳は、小生此度教授ニ被任、新設講座担当被命候ニ付、早速御懇書を辱ふし、猶又、今日態々御枉駕被下候上、御祝物を給はり、御芳志難有奉敬謝候、先は右不取敢、以書中御礼申上度、万緒拜趨之節ニ譲り候、早々頓首

五月十六日夕 入沢達吉

池田御叔父様

侍史

再啓、竹山方相添候梨実、拝呈致呉候様申参候、多少日子を経過候事故、交質も無之哉ト、懸念仕候、猶又、同人未だ国元出立之報ニ接し不申候得共、不日上京之事ト奉存候也

(斎藤)

(二) 此度教授ニ被任……明治三十四年帝大教授に就任。

15 明治(三十五年) 月十二日

三八一 入沢達吉 池田謙斎

拜啓、陳は、秀男様御縁談御整相成候趣、唯今御^(カ)面^(ク)拝見、

始メテ承知仕り、大慶〔天〕至ニ奉存候、貴命ニ依リ捺印〔天〕上、
差上申候、孰〔天〕拜趨万縷〔天〕可申述候、早々頓首

□月十二日 入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

(二) 秀男…明治三十五年十一月二十六日婚義、三十六年一月
二十六日入籍。

16 明治(三十五年) 三月二十九日

三八七 入沢達吉 池田謙斎

拜啓陳は別紙捺印仕候処、肉あしき為少しく欠判明候、若シ
不都合にても候はゞ、重ねて御送附之御手数相願度候、先は
右申上度、草々頓首

三月廿九日午後

入沢達吉

池田御叔父様

侍史

(斎藤)

17 明治(三十六年) 十一月二日

三九〇 入沢達吉 池田謙斎

〔封筒裏〕 神田区駿河台北甲賀町九番地 池田謙斎様

梧右

(明治36年11月2日消印)

〔封筒裏〕 東京市日本橋区久松町四十番地 入沢達吉

拜啓、急ニ寒冷ニ相成候処、愈御清福被為入、奉賀候、陳者、
過日御高見承り候金助町邸宅の義、愈一坪四十円計の割合に
て買求め、登記を済ませ申し候、然し当分ハ、移転出来兼候
事に御座候、先は右申上度、早々頓首

十一月二日 入沢達吉

池田御叔父様侍史

(斎藤)

18 明治 年十二月七日

三七九 入沢達吉 池田謙斎

(註) No.15と関連か。

拜啓、陳は御婚儀間近く相成、御繁用奉拜察候、昨夜一寸参

上仕候処、御不在にて不得拝肩、残念ニ奉存候、扱、来ル十日には、御案内被下候刻限に、兩人共推参可仕候、又小生、今月中旬頃二一兩度、人を招き候事に有之候処、貴家の御婚儀(十日)之後ニ御里開ラキ等にて、小生之参列仕候御座候哉、如何ニ御座候、昨夜、秀男君ニ御伺申候得共、相分り不申候ニ付、若シ右様其事御座候はハ、日を承り度候為、使之者差上候ニ付、御返事御欲し申上候、又若シ、此使参り候節、未だ御帰宅不被遊候はハ、乍御手数、今晚中ニ一寸郵便御投函被下度願上候、早々頓首

十二月七日夕

池田御叔父様 入沢達吉

侍史

(斎藤)

19 明治 年一月二十九日

三五〇 入沢達吉 池田謙斎

拝啓、陳は過日参堂、其節申度事失念仕候が、杉村甚兵衛殿一診候処、昨年夏ニ比し諸徴佳良に相成り、略全快と存じ候故、別に薬用にも及び申間敷ト申シ置き候、然し為念尿を檢シ度ト存じ、取寄せ検査致候処、蛋白ハ無之候得共糖分ハ著明ニ認メラレ候、依て其内御高診被下候上、可然御処置被成下度相願候、先は右申上度、早々以上

一月廿九日 入沢達吉

池田様

侍史

(斎藤)

20 明治 年二月十二日

三七七 入沢達吉 池田謙斎

拝啓、陳は昨日は御尊来被下候処、如例小生不在にて、失礼申上候、扱、杉村氏、昨朝御見舞致候処、其前日ニ比し、頭痛も、^て齒痛も共に去り候由ニ御座候、糖を見度候儘、昨日檢尿候処、陰性ニ御座候、(蛋白も御高論ノ通り、同ジク陰性ニ御座候)、今朝御宅方電話被下候後に、使あり候得共、小生今日は差支アリ、参診致兼候、且ツ最早参診の必要も無き事ト奉存候故、右之通申置候、先は右而已申上候、草々頓首

二月十二日午後

池田御叔父様 入沢達吉

侍史

(斎藤)